

尾瀬 湿原に咲く花 ①

今年を逃したら、はたしてもう一度登ろうという気になるかどうかかわからないと思い、2024年7月に、至仏山へ行ってきました。尾瀬ヶ原を上から見下ろし、至仏山に咲く花々を見たかったのが理由です。

9日朝、鳩待峠からアヤメ平、長沢新道を下って竜宮へ。そして山ノ鼻で1泊。10日、至仏山に登って鳩待峠に下るというコースでした。

天候は一日目は曇り、二日目は曇りから雨の中で、尾瀬ヶ原を見下ろし、花の写真も撮ることができました。



オタカラコウ (キク科)

尾瀬ヶ原に降りてきて竜宮の手前で見た花。山地のやや湿ったところを好む多年草。緑の中に黄色い花がツンと頭を出して咲いているので、目立つ。



ギンリョウソウ

(イチヤクソウ科)

針葉高木林に生える菌根多年草。高さ10~20 cm。葉緑素を持たず蠟細工のよう。色と形、薄気味悪いが、触れてみるとサラッとしている。

鳩待峠から横田代への樹林帯の林床で見つけた。



トモエソウ

(オトギリソウ科)

樹林帯の中を登り横田代に出ると、ワタスゲとともに目についた木道の間に咲く黄色い花。

陽当たりのよい草地に生える多年草。花びらが巴形になっているというのだが……。



ツルコケモモ (ツツジ科)

ミズゴケ湿原に生える常緑の矮性低木。茎は横に這い長さ20 cmくらい。

秋には丸い実がなるが、遠い昔、山小屋の夕食の膳に塩漬けにしたものが出されていた。秋に見つけると、こっそり採って口に入れてみる。酸っぱい。



モウセンゴケ (モウセンゴケ科)

ミズゴケ湿原の凹地に生える多年草。根から出た柄の先に5~10 mmの丸い葉が付き、葉の表面は粘液を出す腺毛に覆われていて、腺毛で虫を捕らえる食虫植物。

葉の形が匙型のはサジバノモウセンゴケ(右上)、長く伸びたものはナガバノモウセンゴケ(右下)と呼ばれる。



アサヒラン (ラン科)

サワランとも言う。湿原に生える多年草。20 cmくらいの花茎の先に2 cmほどの紅色の花が一つ。小さい花だが緑の中でよく目立つ。



トキシソウ (ラン科)

アサヒランに似ているが、花の色が優しいトキ色。湿原に生える多年草。20 cmくらいの茎の中間に葉が1枚、先端に花を一つ付ける。

タムラソウ

(キク科)

アザミの仲間に似ているが、棘がないので区別できる。丹色が群れて咲くことから「丹群草」となったという。地下茎を持つ多年草。



ニッコウスゲ (ユリ科)

朝咲いて夕方にはしぼむ、一日花。雨に濡れて咲く風情もいい。

夏、尾瀬ヶ原や大江湿原を埋め尽くすほどに咲いているのを見ると、それだけで尾瀬ヶ原に来た甲斐があったと思う。



イワショウブ (ユリ科)

湿地に生える多年草。白い小さい花が群れて咲く。あまり自己主張せずひっそり咲いている風情がいい。

右の写真。ワタスゲが一面の緑を純白で覆うようにあるのも素晴らしい。

これは2014年7月に写したもので、浅湖(アザミ)湿原だったと思う。奥の山は山頂が雲に隠れているが、燧ヶ岳。



ワタスゲ

(カヤツリグサ科)

高層湿原に生える多年草。これは花ではなく実(種)。この花をまじまじと見た覚えがない。花の季節に行っていないか、目立たないから気付かなかったのか。



尾瀬 湿原に咲く花 ②



ミズバショウ（サトイモ科）

尾瀬で最も有名な花はこの花だが、約60年前に初めて尾瀬に行った時よりほかに、その花の時期に尾瀬に行っていない。混雑を避けたくて。

湿地に生える多年草。写真は実。ぶつぶつの一つ一つが、元は黄緑色をした花だった。



ヒツジグサ（スイレン科）

池塘の水面を覆って丸い葉が茂り点々と白い花が浮いているのを見ると、涼しさが感じられる。

未（ひつじ）の刻に花びらが開くからそう名付けられたとか。

同じ場所に咲くオゼコウホネの黄色は、見つけられなかった。



ヒオウギアヤメ（アヤメ科）

山野の陽当たりのよい湿地に生える多年草。

葉の生え具合が、内裏雛が持つ檜扇に似ているのだとか。カキツバタ・ショウブとの区別がつけられない。



カキツバタ（アヤメ科）

水湿地に生える多年草。

この花、カキツバタとしたが自信はない。アヤメかヒオウギアヤメか。



モリアザミ（ユリ科）？

葉の形を見るとアザミの仲間のように見える。花が開いていないので判らない。



キンコウカ（ユリ科）

日当たりのよい湿地に生える多年草。小さい金色の花が穂状に咲く。

群生しているのに意外と目立たない花だ。



ヤマドリゼンマイ（ゼンマイ科）

乾燥気味の湿原に生える多年草。花ではないが広い範囲に群生していて、一面の緑が美しい。

この群生地の中は他の植物が入り込めないほど、地下茎が密になっているのだそう。例えば他の植物の種が落ちてても、この繁茂状態では生き延びられないのかもしれない

ヤマトリカブト（キンポウゲ科）→

湿原周辺の草地に生える多年草。

花の形が烏帽子に似ていることから名づけられたのだという。色と形、一度見たら忘れない。



タテヤマリンドウ（リンドウ科）

上の写真の下部に咲いているのがこの花。小さい花なのに目立っている。青空の色を映しているような色だからだろうか。

湿った低層地に生える越年草。

花は陽が射すと開き、夕方にはこのようにしぼむ。



ヒメシャクナゲ（ツツジ科）

ミズゴケの多い湿原に生える、高さ10~30cmになる常緑の小低木。写真の木、この高さで何年ここに生きているのだろうかと思う。

シャクナゲの仲間は華やかできれいだが、この花が一番好きだ。だから、尾瀬ヶ原の木道で見つけると、しゃがみ込んで暫く眺めている。この小さい体でよく頑張っているなあと思いながら。



レンゲツツジ（ツツジ科）

高原に生える落葉低木。

広い尾瀬ヶ原のあちこちに小さく群れて咲いて目立つのだが、時期が遅かったのか、これしか咲いているのを見なかった。

湿原に咲く花は、今回はこれで終わり。また、季節を変えて訪れたいと思っている。